

—— 「プレゼンテーション」教育における方法 ——

大曾根 匡

専修大学 経営学部 情報管理学科

1. はじめに

プレゼンテーションとは、自分の主張や実行したことを人前で発表することである。もう少し正確にいうと、ある特定の目的のために、与えられた場所と時間で、聞き手に自分のアイデアや企画、研究結果などを伝達し、その結果として、聞き手に意思決定や判断をしてもらう場のことである。プレゼンテーションの善し悪しで、そのアイデアや研究成果の善し悪しが判断されたり、印象づけられたりしてしまうことも少なくない。このような理由で、プレゼンテーションの技能を身につけておくことは学生にとっても社会人にとっても極めて大切であり、備えておくべき必要最小限の技能のひとつであるといっても過言ではないと考える。

しかし、大学においてこのような教育をきちんと行っているところはほとんどないというのが実情である。プレゼンテーション用ソフトの使い方の講義を情報処理演習やコンピュータリテラシなどの講義の中で行っている大学は少なからずあるが、それだけではプレゼンテーションの講義として十分ではないと考える。われわれが目指しているのは、単にプレゼンテーション用ソフトの使い方をマスターさせるのではなく、わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションを行うためのいくつかの技術をマスターさせることである。わかり

やすく説得力のあるプレゼンテーションを行うことを学生の修得目標として、それを実現させるためのひとつの教育方法を提案することが本論文の目的である。

2. 学習目標

わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションの仕方を学生に身につけさせるために修得すべき項目を検討した結果、次の項目を学生の学習目標とすることにした。

- (1) プレゼンテーションについての理解
- (2) プレゼンテーションの準備
- (3) 箇条書き技術の修得
- (4) ビジュアル化技術の修得
- (5) 論理の構築方法の修得
- (6) 電子スライド作成技術の修得
- (7) 口頭発表技術の修得

以上の項目のうち、限られた時間内に聴衆に発表内容を理解させるためには「箇条書き」と「ビジュアル化」、「論理の構築方法」の3点がプレゼンテーションにおける最重要項目であると考え、これらを学習すべき重要な項目として掲げた。また、最後に「ディベート」について学ばせる。ディベートが意思決定に重要な役割を果たすことを理解させ、そのディベートを行うためには「情報リテラシ」で学んだことを全て用いることを理解させ、「情報リテラシ」の講義を締めくくる。以上が本論文で提案するプレゼンテーションに対する教育方法の特徴である。表2. 1に各学習項目における具体的な修得目標を示す。

表2.1 学習項目

	大項目	中項目
1	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの定義 プレゼンテーションの重要性
2	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの目的の把握
		主題と結論の設定
		論理の構築
3	箇条書き技術	説明順序の検討
		質疑応答の準備
		箇条書きの長所 箇条書きの形式
4	ビジュアル化技術	ビジュアル化の長所と短所
		文章のビジュアル化
		グラフのトリック
		理解しにくいグラフ
5	論理の構築方法	事実と推論
		論理の組み立て法
		論理の単純化
		ディベート
6	電子スライド作成技術	箇条書き
		図の挿入
		グラフの作成
		効果的な図形の使用
		アニメーション効果
7	口頭発表技術	話し方
		態度
		熱意

### 3. 授業の進め方

#### 3.1 「箇条書き技術の修得」の講義の進め方

箇条書き技術を修得させる講義では、次のような講義の進め方を提案する。

- (1) 箇条書きのメリットについての解説
- (2) 箇条書きのスタイルについての解説
- (3) 箇条書きの練習
- (4) 解答例の提示
- (5) スライドの作成

#### 3.2 「ビジュアル化技術の修得」の講義の進め方

ビジュアル化技術を修得させる講義では、次のように講義を進めていくことを提案する。

- (1) ビジュアル化の長所と短所の説明
- (2) ビジュアル化の手段の説明
- (3) 関係を表現する手段の説明
- (4) 文章のビジュアル化の練習
- (5) 解答例の提示
- (6) グラフのトリックの説明
- (7) スライドのビジュアル化

#### 3.3 「論理の構築方法」の講義の進め方

論理の構築方法を修得させる講義では、次のように講義を進めていくことを提案する。

- (1) 事実と推論
- (2) 論理の組み立て方
- (3) 論理の単純化
- (4) ディベート

### 4. おわりに

専修大学経営学部で本年度より開講した「情報リテラシ」の基本方針は「目的指向」である(【1】)。すなわち、単にアプリケーションソフトの使い方を教えるのではなく、ある目的を達成するために必要な手段、すなわち、情報の収集、情報の分析、情報の発表などの手段を身につかせることを目的とした。そのために、学生には初めにテーマを決めさせ、そして、そのテーマに関して情報を収集し、分析し、結論を得、発表するというプロセスを学生に経験させるという手法を取ることを基本方針とした。しかし、実際に学生ひとりひとりに調べてきてもらったテーマについて口頭発表させ、そのプレゼンテーションに対し適切なコメントを与えるということまでは、半期科目である「情報リテラシ」では時間的な制約で困難であろう。今後の課題である。

#### 参考文献

- 【1】魚田, 大曾根, 松永, 宮西: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—総論—, IPSJ 第60回全国大会, 2000.
- 【2】高橋綾子, 魚田勝臣: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「基礎」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会, 2000.
- 【3】松永賢次: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報収集」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会, 2000.
- 【4】宮西洋太郎, 魚田勝臣: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報分析」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会, 2000.
- 【5】(社)私立大学情報教育協会: 求められる大学の基礎的情報教育モデルの考察, 1999.
- 【6】海保博保編著: 説明と説得のためのプレゼンテーション, 共立出版, 1995.
- 【7】小林敬誌, 浅野千秋: プレゼンテーション技法+演習, 実教出版, 1996.